

定年前後におけるキャリアへの影響要因分析と越境学習の有効性に基づく取り組み提案

— 地域金融機関（管理職出身者）を対象としたインタビューより —

【 要旨 】

ソーシャル・イノベーション研究科

ソーシャル・イノベーション専攻

2025年3月修了

岩下 宏文

【要旨】

本研究は、定年前後に生じるキャリアチェンジへの影響を分析し、本人にとって満足度の高いキャリア形成に寄与するプログラムおよび取り組み提案を目指す。そのために、地域金融機関の管理職経験者を対象に、定年前後におけるキャリア形成への影響要因と意識の変化に焦点を当てたインタビューを実施した。加えて、越境学習とキャリア研修が意識の変化などにもたらす影響を検討している。

研究の背景として、日本社会は急速に少子高齢化が進み、労働力不足が深刻な問題となる中で、定年退職後も高齢者が活躍できるキャリア支援の必要性が高まっていることが挙げられる。多くの企業で定年後の再雇用や役職定年制度が導入されているが、これらの制度は従業員の処遇や役割の変化に伴い、意欲やモチベーションに悪影響を及ぼすことがある。地方においては、地域金融機関におけるシニア層のキャリア支援や、地域大学による社会人向け学び直しの場の提供は、持続可能な地域社会を実現する上で欠かせない課題である。

キャリアチェンジの影響要因を明らかにして、キャリア形成に寄与する取り組み提案のため、地域金融機関の職員 19 名を対象に半構造化インタビューを行い、定年前後のキャリアへの影響要因・経験・意識を詳細に検討した。インタビュー結果からは、越境学習・キャリア研修がキャリア意識を高め、定年前後のキャリア自律に効果があることが確認された。越境学習は、従業員が自身の所属組織や業務領域を超え、他分野や異業種と接点を持つことで新たな価値観や視座を得る機会を提供し、キャリアの自己決定に影響するものである。キャリア研修は、職員がキャリア形成に向き合い、セカンドキャリアへの心構えの醸成に繋がるということが明らかになった。50 歳前後でのキャリア研修は、職員にとって意識転換の契機となり、組織外での活躍に向けた準備を促進するものと考えられる。

本研究の成果として、調査の実施及び分析結果をもとに、地域企業・行政・大学が連携したシニア活躍推進のための研究会発足を提案する。研究会では、地域大学における越境学習とキャリア研修を組み合わせた社会人講座などの検討などを行い、実現を目指す。地域企業と大学との連携による公開講座やリスキリング・リカレント教育を通じて、異なる年代・分野の人々が共に学ぶ機会を提供していくことは、地域大学の使命の一つでもある。これにより、地域のシニア層が主体的に学び直し、再就職や地域貢献など多様なキャリアを考える意識を育むことが期待される。また、こうした取り組みは、地域金融機関職員にとどまらず、地域社会全体の活力を高めることで、地方創生に寄与するものである。この活動は、全国の地域金融機関や地域企業においてもモデルとなり得る可能性があり、持続可能なキャリア形成と地域社会の活性化を目指し取り組んでいく。